

第 8 章 異常水質事故発生状況

I 対象期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

II 対象事故

平成23年度に環境局環境対策課で把握した魚死亡、油浮遊、濁水、pH異常等の異常水質事故

III 発生状況

1 異常水質事故発生件数

(1) 種類別事故発生件数

平成23年度に発生した異常水質事故は36件であった。前年度の46件と比べ10件減少した。異常水質事故の種類別では、油浮遊が14件と最も多く、次いで着色水が8件、魚死亡が4件、pH異常が2件、濁水が1件、その他が7件であった。

(2) 水系別異常水質事故発生件数(表Ⅷ-1)

水系別では、東京湾で8件、多摩川水系で17件、鶴見川水系で11件の異常水質事故が発生した。

東京湾で発生した異常水質事故は、油浮遊が5件、pH異常が1件、その他が2件であった。

多摩川水系で発生した異常水質事故は、魚死亡が4件、油浮遊が3件、着色水が4件、濁水が1件、その他が5件であった。河川別では、多摩川本川で2件(その他2件)、三沢川で1件(着色水)、平瀬川で8件(魚死亡1件、油浮遊2件、着色水3件、濁水1件、その他1件)、二ヶ領用水で5件(魚死亡3件、その他2件)、五反田川(油浮遊1件)であった。

鶴見川水系で発生した異常水質事故は、油浮遊が6件、着色水が4件、濁水が1件、pH異常が1件であった。河川別では、鶴見川本川で1件(油浮遊)、矢上川で7件(油浮遊4件、着色水3件)、麻生川で2件(油浮遊1件、着色水1件)であった。

表Ⅷ－1 水系別異常水質事故発生件数

水系	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
東京湾	川崎港運河内		5			1	2		8
	川崎港運河外								0
	小計	0	5	0	0	1	2	0	8
多摩川	多摩川本川						2		2
	三沢川			1					1
	旧三沢川								0
	平瀬川	1	2	3	1		1		8
	二ヶ領用水	3					2		5
	五反田川		1						1
	登戸排水路								0
	山下川								0
	六ヶ村堀下水路								0
	宮内下水路								0
	大丸用水								0
	五ヶ村堀								0
	小計	4	3	4	1	0	5	0	17
	鶴見川	鶴見川本川		1					
矢上川			4	3					7
有馬川									0
渋川									0
麻生川			1	1					2
早野川									0
真福寺川									0
片平川									0
江川									0
市外河川						1			1
小計		0	6	4	0	1	0	0	11
合計		4	14	8	1	2	7	0	36

(3) 原因別異常水質事故発生件数(表Ⅷ－2)

原因者が判明した異常水質事故は16件で、工場・事業場によるものが8件、建設工事によるものが5件、船舶によるものが1件、その他が2件であった。

工場・事業場に起因する8件の異常水質事故(油浮遊4件、着色水1件、pH異常1件、その他2件)の原因は、作業ミス4件、施設の管理不備3件、不明1件であった。建設工事に起因する5件の異常水質事故(油浮遊2件、着色水1件、pH異常1件、その他1件)の工事内容は、建築工事が2件、その他の工事が3件であった。船舶に起因する1件の異常水質事故(油浮遊)の原因は、作業ミスであった。また、原因不明の異常水質事故は20件で、魚死亡が4件、油浮遊が7件、着色水が5件、濁水が1件、その他が3件であった。

表Ⅷ－２ 原因別異常水質事故発生件数

水系	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
		工場・事業場	施設の破損						
	作業ミス			1		1	2		4
	施設の管理不備		3						3
	火災消火								0
	原因不明		1						1
	小計	0	4	1	0	1	2	0	8
建設工事	下水道工事								0
	河川改修・管理								0
	水道・ガス工事								0
	建築工事			1		1			2
	道路工事								0
	その他の工事		2				1		3
	小計	0	2	1	0	1	1	0	5
船舶	施設の破損								0
	作業ミス		1						1
	施設の管理不備								0
	原因不明								0
	小計	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	1	0	0	1	0	2
	原因不明	4	7	5	1	0	3	0	20
	合計	4	14	8	1	2	7	0	36

2 異常水質事故発生状況の経年推移(平成6年度～平成22年度)

(1) 異常水質事故発生件数

平成6年度から平成23年度までの種類別異常水質事故発生件数を表Ⅷ－3に示す。
過去18年間の平均発生件数は36件/年であった。

表Ⅷ－3 種類別異常水質事故発生件数経年推移

種類	年度																		合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
魚死亡	3	3	4	12	1	0	3	3	1	1	0	0	2	2	0	4	5	4	48
油浮遊	13	11	13	24	15	11	18	11	14	20	11	21	20	19	21	14	10	14	280
着色水	3	5	6	8	3	4	9	1	5	6	7	5	27	12	18	38	26	8	191
濁水	1	2	0	0	3	4	6	5	4	4	1	5	4	7	8	14	4	1	73
pH異常	3	2	5	4	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	21
その他	1	1	2	2	1	1	1	0	1	4	1	0	0	1	2	3	1	7	29
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	643

(2) 水系別異常水質事故発生件数

平成6年度から平成23年度までの水系別異常水質事故発生件数は表Ⅷ－4に示す。

水系別発生件数は、海域では京浜運河（28件）、多摩川水系では平瀬川（164件）、鶴見川水系では矢上川（90件）が最も多かった。

表Ⅷ－4 水系別異常水質事故発生件数経年推移

水系	年度																			合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23		
東京湾	川崎港運河外		1		4	1	1			3	1	2	3	4	3	2	1		26	
	末広運河						1		1		2				1				5	
	田辺運河	2	1	2	2			2	1	1				2	2	1		1	17	
	大師運河			1			1	1	1	1	3	1	4						13	
	京浜運河	2	2	2	3		4	2	1	4			3	1		2		1	1	28
	千鳥運河					1		2			2		2				1			8
	塩浜運河	1	3	1							1		1	1	1				4	13
	池上運河	1		1					1	2		2				1				8
	夜光運河		1																	1
	水江運河			1												1				2
	浅野運河				1			1	2	1			1				1			7
	桜掘運河					1				2					2				1	6
	南渡田運河						1							1	2					4
	白石運河											1	2				1			4
	川崎航路							1							1					2
境運河												1	1						2	
多摩運河																		1	1	
小計	6	8	8	10	3	8	5	5	12	10	8	13	12	12	11	6	2	8	147	
多摩川	多摩川本川				3	2		1	5	2			1	5	5	5	7	2	38	
	三沢川		1	1	1	3		2	1	1				2	2	4	1	1	21	
	旧三沢川		1							1		1							3	
	平瀬川	5	4	9	7	5	5	1	4	2	6	5	6	23	8	16	34	14	10	164
	二ヶ領用水	6	6	2	8	3	2	5	5	1	2	4	4	3	3	3	1	3	3	64
	五反田川	1			2	1	1	2	2				2	2	1		1	1	1	17
	登戸排水路	1			1	1						1								4
	山下川							2								1	1	1		5
	六ヶ村堀下水路				1			2									1			4
	宮内下水路			1				1			1						1			4
	大丸用水				2			1	1					1						5
五ヶ村堀							1												1	
小計	13	12	13	25	15	8	17	14	9	13	10	13	30	19	27	48	27	17	330	
鶴見川	鶴見川本川				1	1	1	1				1		1		3		1	10	
	矢上川	2	4	4	6	4	1	5	2		10	2	2	8	6	6	10	11	7	90
	有馬川			1	3			4		2		1		3		1	3			18
	渋川	1		1	1			1		1								1		6
	麻生川			1	3			1	1		1	1			2	3	2	4	2	21
	早野川			1				1					1		1					4
	真福寺川	1			1	1					1		1			1	1			7
	片平川	1		1				1					1					1		5
	江川					1		1												2
	市外河川※							1											1	2
小計	5	4	9	15	7	4	15	2	4	12	3	6	11	10	11	19	17	11	165	
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	643	

※ 鶴見川水系の市外河川：平成12年度（真光寺川）、平成23年度（黒須田川）

(3) 原因別水質事故発生件数

平成6年度から平成23年度までの原因別異常水質事故発生件数を表Ⅷ－5に示す。
原因不明の異常水質事故は過去18年間で平均22件/年であり、全体の62%となっている。
原因の特定には、関係機関との連携に基づく異常水質事故発生当初の初動調査が重要である。

この初動調査における関係機関の連絡及び協力体制を確立するため、川崎市では庁内関係機関との協議を基に、平成6年に策定した「川崎市異常水質事故対策要領」に基づき対応している。

表Ⅷ－5 原因別異常水質事故発生件数経年推移

原因		年度																		合計
		H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
工場・事業場	施設の破損	1	6	2		1	2	1	2	2	1	1	2		1	1				23
	作業ミス	6		3	5	2	5	7	1	2	6	4	6	5			2	2	4	60
	施設の管理不備		4	3	5	1		5	3	4	3	1	2	3	1	1	3		3	42
	火災消火			1	1										1					3
	原因不明																		1	1
	小計	7	10	9	11	4	7	13	6	8	10	6	10	8	3	2	5	2	8	129
建設工事	下水道工事	1				1		1	1						2	1	2			10
	河川改修・管理		1	1		3				1	1			1						8
	水道・ガス工事								1						1	2				4
	建築工事			1		1		2			1		3	1	2	3	5		2	21
	道路工事				1				1	1			1				2			6
	その他の工事														2	2			3	7
小計	1	1	2	1	5	0	3	2	3	2	1	4	4	6	5	11	0	5	56	
船舶	施設の破損		1	1	3	1	2			1	3	2	1	2	1					18
	作業ミス		1			1	1			2			1				1		1	8
	施設の管理不備													1				1		2
	原因不明													1						1
小計	0	2	1	3	2	3	0	0	3	3	2	2	4	1	0	1	1	1	29	
その他	1	1	3	5	4	0	2	2	2	3	1	2	0	2	1	0	0	2	31	
原因不明	15	10	15	30	10	10	20	11	9	17	11	14	37	29	41	56	43	20	398	
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	643	

3 異常水質事故発生状況一覧

平成23年度に発生した異常水質事故の発生状況の一覧を表Ⅷ－6に示す。

表Ⅷ-6 異常水質事故発生状況一覧

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分		措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚死亡	油浮遊 その他				
4月4日 ・ 4月4日	4月4日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川		○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③環境局環境対策課	矢上川の上野川橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水が継続的に流出していることを確認した。水路(暗渠)沿道での家屋の塗装工事の施工現場において、作業員から事情聴取し、発生源元と特定した。事業者に対して、事故防止策を講じるなどの行政指導を行った。	判明	原因者に対して、水溶性塗料投棄の状況の確認と、事後措置を早急にさせるとともに、再発防止策を指導した。原因者は作業内容の見直しを行った。
4月5日 ・ 4月5日	4月5日	鶴見川	麻生川	麻生区 片平		○	①環境局環境対策課 麻生区道路公園センター 稲城市環境課環境保全係 ② ③稲城市環境課	麻生川の山口橋付近で白濁水が流出していることを、河川パトロール中ため流センター職員が発見し、原因迫のため流出経路を辿り、東京都稲城市の業者が原因者と確認した。白濁水の影響により、魚浮上等の異常は見受けられなかった。	判明	原因者に対しては、稲城市の環境担当・廃棄物担当が始末書の提出等の行政指導を行った。
4月8日 ・ 4月8日	4月8日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川		○	①環境局環境対策課 宮前区道路公園センター ② ③	矢上川の上野川橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水を確認した。河川への影響は、白濁水が薄まっておた。魚浮上等の異常は見受けられなかった。周辺調査を実施したものの、原因者については特定できなかった。	不明	
4月11日 ・ 4月11日	4月11日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川		○	①環境局環境対策課 宮前区道路公園センター 神奈川県警察(野川交番) ②宮前区役所道路公園センター ③	矢上川の上野川橋付近の水路から油が流出しているとの通報を受け、実地調査を行った。油が水路出口付近に残留していたため、オイルフェンスを敷設し流出防止策を図った上で、回収を行った。原因究明のため、周辺調査を実施したが流出経路が不明で原因者については特定できなかった。	不明	

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	その他				
4月12日 ・ 4月12日	4月12日	多摩川	平瀬川	高津区 上作延			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川の釈迦堂橋付近で青い水が流出しているとの通報を受け、実地調査で青い水が溜まっていることを確認した。新たな流出もなく溜まった状態で、下流に影響を及ぼしていないことを確認した。原因者については特定できなかった。	不明	
4月22日 ・ 4月22日	4月22日	鶴見川	黒須田川	麻生区 王禅寺			○	①環境局施設部 ② ③環境局環境対策課	雨水調整池設置工事での掘削箇所の埋戻し作業時において、水路接続部の隙間の閉塞が十分でなく、埋戻材として使用したスラッジモルタル(高7カ割)が水路に流出し、黒須田川へ影響を及ぼした。流出したスラッジモルタル量は、約0.5m ³ と推定される。なお、過日の調査で水生生物への影響は、特に認められなかった。	判明	原因者に対して、汚水流出の原因究明と対策について早急に措置させるとともに、事故原因と再発防止策を指導した。原因者は作業内容の見直しを行った(事故報告書提出済)。
4月28日 ・ 4月28日	4月28日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	矢上川の上野川橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水を確認した。周辺調査中に白濁水の痕跡がなくなったり、原因者については、特定できなかった。また、下流に影響を及ぼしていないことを確認した。	不明	
5月2日 ・ 5月2日	5月2日	多摩川	二ヶ領 用水	高津区 久地			○	①環境局環境対策課 高津区役所道路公園センター ②高津区役所道路公園センター ③	二ヶ領円筒分水付近でのコイが死亡との通報を受け、実地調査を行った。計3匹のコイの死亡を確認した。その他の魚の異常が見受けられなかった。有害物質やコイへルペスが推定される状況でないことから、しばらく様子を見ることができない。その後、コイの死亡事故は発生していない。	不明	
5月12日 ・ 5月12日	5月12日	鶴見川	鶴見川	麻生区 下麻生			○	①環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水センター ②神奈川県横浜川崎治水センター ③環境局環境対策課	鶴見川寺家橋付近に油が溜まっているとの通報を受け、関係機関と連携して対応にあたった。泉川崎治水センターが原因者を特定するとともに、油流出防止措置を行った。事業者には、水質汚濁防止法第14条の2に基づき、事故原因の究明と対策の実施を指導した。	判明	原因者に対して、油流出の原因究明と対策について早急に措置させるとともに、事故原因と再発防止策を指導した。原因者は作業内容の見直しを行った(事故報告書提出済)。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	その他				
6月1日 ・ 6月1日	6月1日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生		○		①環境局環境対策課 公害研究所 ② ③	平瀬川柳橋付近上流からの濁水を、河川調査中に発見した。水質は、pH(8.17)、透視度(21cm)、COD(7.7ppm)、BOD(2.2ppm)、DO(7.03ppm)であり、魚類の浮上事故は発生せず、濁水はしばらくして薄らいた。周辺調査を行ったが原因者の特定には、至らなかった。	不明	
6月4日 ・ 6月4日	6月4日	鶴見川	麻生川	麻生区 片平	○			①環境局環境対策課 上下水道局北部下水道管理事務所 神奈川県警察(麻生警察署) ②原因者(事業者) ③環境局環境対策課	麻生川柿生橋付近で油が流出しているとの情報を受け、実地調査で雨水放流口より油流出を確認した。周辺調査を行ったところ、マンション新築工事現場前路面で油膜を発見し、原因者を特定した。原因者に、油の流出防止、清掃等の応急措置をとるよう指導した。	判明	原因者に対して、油流出の原因究明と対策について措置させるとともに、事故再発防止策を指導した。原因者は作業内容の見直しを行った(事故報告書提出済)。
6月7日 ・ 6月7日	6月7日	多摩川	二ヶ領 用水	多摩区 登戸		○		①環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター ②多摩区役所道路公園センター ③	自宅前の道路脇開溝水路において、アマリカザリガニ(50~60匹)の死骸があるとの情報を受け、現地調査を行った。pHは中性であり、簡易試験での異常は見つからなかった。原因の特定には至らず、死骸を片付け、しばらく様子を見ることとした。	不明	
6月14日 ・ 6月14日	6月14日	多摩川	平瀬川	宮前区 神木本町	○			①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	河川パトロール中に平瀬川神木橋付近の水路から油が流出しているのを確認した。水路を上流側に向けて調査を行ったが、原因については特定できなかった。流出した油の量は、少なく油膜程度であった。なお、油は軽油と推定された。	不明	
6月23日 ・ 6月23日	6月23日	多摩川	二ヶ領 大師堀	幸区 下平間		○		①環境局環境対策課 幸区役所道路公園センター ②原因者(市民) ③環境局環境対策課	大師堀において、ペンキが流出しているとの通報を受け、実地調査を行った。近くで屋根の塗装を行っていた市民が、誤ってペンキ缶を倒したことが原因であることを認めため、原因者に現状復帰を指導した。	判明	原因者に対しては、現状復帰の措置をとるよう指導した。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	その他				
7月1日 ・ 7月1日	7月1日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川		○		① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導 ① 環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水センター 神奈川県警察 他 ② 宮前区役所道路公園センター他 ③	矢上川山下橋右岸から油が流出しているとの通報を受け、関係機関と連携して被害の発生及び拡大の防止策を図るとともに、流出経路を辿り、道路側溝のグレーチングの中に油が溜まっていることを確認し、不法投棄場所を特定した。廃油回収等の現状復帰措置及び調査を行うものの、原因者の特定に至らなかった。	不明	
7月5日 ・ 7月5日	7月5日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生		○		① 環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川柳橋下流左岸の菅生住宅側の水路から白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査を行った。管路図を辿るなどの周辺調査を行うものの、途中白濁水が消えたことから原因者については、特定できなかった。河川への影響として、魚浮上等の異常は見受けられなかった。	不明	
7月12日 ・ 7月12日	7月12日	多摩川	多摩川	川崎区 浮島町		○		① 川崎市消防局 海上保安署 国土交通省京浜河川事務所 ② ③ 環境局環境対策課等	工場での製品保管容器からポリエチレン粉末が流出し、その一部が多摩川下流域へ飛散したとの通報を受けた。敷地内には、事業者が回収したものの、公共水域には、粉末が流出 (35kg) した。	判明	本事案は、法令の事故時の措置に該当しない。事業者には、再発防止のための指導等を行った。
7月15日 ・ 7月15日	7月15日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生		○		① 環境局環境対策課 ② ③	宮前区菅生の平瀬川のホップスカハートにおいて、汚水 (大きな泡を伴う) が流出しているとの通報を電子メールで受けた。実地調査を行い、聞き取り調査と周辺事業所への異常水質事故防止の喚起のための啓発を行った。	不明	
7月27日 ・ 7月27日	7月27日	多摩川	多摩川	中原区 上平間		○		① 国土交通省京浜河川事務所 ② ③ 環境局環境対策課 他	事業所でのポンプ更新工事において作業ミスにより、汚水が多摩川に流出したとの通報を受けた。汚水の量は、20m ³ であり、河川への影響は確認できなかった。また、利水者へ事故発生についての情報提供等の連絡を行った。	判明	本事案は、法令の事故時の措置に該当しない。事業者には、再発防止のための事故類末の報告の提出等の指導を行った。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	その他				
7月29日 ・ 7月29日	7月29日	多摩川	平瀬川	高津区 下作延		○		①環境局環境対策課 ② ③	平瀬川中之橋上流左岸の水路から白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水を確認したものの、暫くして収束した。河川への影響は、魚浮上等の異常は見受けられなかった。また、周辺事業者への聞き取り調査等を通じた異常水質事故の未然防止のための啓発を行った。	不明	
8月3日 ・ 8月3日	8月3日	多摩川	三沢川	多摩区 布田		○		①多摩区役所道路公園センター ② ③	三沢川の多摩川流入付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で現地に着した時点で白濁水の流出が収束していた。河川への影響として、魚浮上等の異常は見受けられなかった。	不明	
8月4日 ・ 8月4日	8月4日	多摩川	平瀬川	高津区 久地		○		①環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター ② ③	平瀬川の平瀬橋人道橋付近で油膜が見られるとの通報を受け、実地調査を行ったところ、微かに油膜の兆候が見られるほどであった。釣り人への聞き取り調査では、5分程度の油流出であったとのことであった。周辺調査を実施したものの、原因者については特定できなかった。	不明	
8月4日 ・ 8月4日	8月4日	鶴見川	矢上川	高津区 野川		○		①環境局環境対策課 ② ③	矢上川の野川橋下流でワックスの臭いがする油が流出しているとの通報を受け、実地調査で下水道樋管から微かに油膜が見られる程度のものを確認した。油吸着マットを展張するような状況でないとの判断で収束した。周辺調査を実施したものの、原因者については特定できなかった。	不明	
8月8日 ・ 8月8日	8月8日	海城	塩浜運河	川崎区 水江町		○		①海上保安署 川崎市港湾局 環境局環境対策課 ②川崎市港湾局 ③海上保安署 環境局環境対策課	海上保安署より水江町の事業所が原因と思われる油流出事故が発生しているとの通報を受け、関係機関が連携して油流出防止策・発生源特定等の事故対応措置を実施した。原因者は、後日特定を行った。	判明	本事業は、水質汚濁防止法第14条の2該当することから、事故の原因、再発防止策等を記載した報告の提出等の指導等を行った。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分	措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等					
8月24日 ・ 8月24日	8月24日	多摩川	二ヶ領 本川	多摩区 登戸	魚死亡 ○ 油浮遊 ○ その他	① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導 ① 環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター ② 多摩区役所道路公園センター ③	二ヶ領本川新川橋付近で大きなコイや小魚が浮いているとの通報を受け、実地調査で魚の死亡とコイの遊泳を確認した。現地での水質調査及び採水後のシアン等の有害物質の検査は、不検出であった。また、死亡した魚のえら等に異常がみられなかった。魚の回収（コイ10匹、アユ等 計約200匹）を行うとともに、周辺調査を行うものの、原因の特定に至らなかった。	不明	
9月6日 ・ 9月6日	9月6日	多摩川	二ヶ領 大師堀	幸区 鹿島田	魚死亡 ○	① 環境局環境対策課 幸区役所道路公園センター ② 幸区役所道路公園センター ③	二ヶ領大師堀ポンプ室落下地点で、大型のコイや小魚が浮いているとの通報を受け、実地調査で魚の死亡とコイの遊泳を確認した。現地調査で、シアン・残留塩素等の水質調査を実施したが不検出であった。魚の回収（コイ8匹、モツゴ等 計約30匹）を行うとともに、周辺調査を行うものの、原因の特定に至らなかった。	不明	
10月7日 ・ 10月11日	10月11日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生	魚死亡 ○	① 宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	平瀬川蔵敷橋付近で、小学生が弱った魚を捕らえているとの市民から通報を受けた。ドジョウ、アユ等20匹程度であった。その他の魚類に異常が認められなかった。連絡体制の遅れから水質検査を実施できなかった。その後の現地調査では、魚類が弱る等の現象が発生していない等の川での異常がないことを確認した。本件は、原因の特定にいたらなかった。	不明	
10月14日 ・ 10月14日	10月14日	多摩川	五反田川	多摩区 枳形	○	① 環境対策課 多摩区役所道路公園センター 北部下水道事務所 ② 多摩区役所道路公園センター 原因者 ③ 環境局環境対策課	五反田川追分橋付近で大量の油が出ており、臭いも強い原因を調査してもらいたいとの市民からの通報を受けた。現地において吸着マット等による廃油の回収や汚染防止策を施すとともに、原因者を解体工事現場と特定した。事業者に対して、事故防止策を講じるなどの指導を行った。	判明	原因者に対して、油の回収、マンホール管内の清掃、油吸着マットの回収等の事後措置を早急にさせるとともに、再発防止策を指導した。原因者は作業内容の見直し等の改善策を報告した。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分	措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等					
10月25日 ・ 10月25日	10月26日	海域	田辺運河	川崎区 扇町	魚死亡 ○ 油浮遊 ○ その他	① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導 ①環境対策課 ② ③	田辺運河に面する岸壁に油膜が漂流していること、事業者から通報を受けた。油の漂流量が少なく、油流出の経路の確認ができていなかった。26日早朝には、油膜が消失していた。本件は、一過性の小規模な油流出事故であり、原因の特定にいたらなかった。	不明	
10月26日 ・ 10月26日	10月26日	海域	桜掘運河	川崎区 浅野町	○	①環境局環境対策課 港湾局 海上保安署 ② ③	朝から桜掘運河において、海面が白濁しているとの市民から通報を受けた。現地調査を行い、桜掘運河全体が乳白色であった。着色水の流入や魚浮遊はみられず、大型魚が空中を跳ねて沖合いへ遊泳していた。また、目撃情報として小型魚が鼻上げをしていた状況であった。現地水質検査で、溶存酸素が0.13ppm、pH7.34であった。また、昨夜からの風向きが北風が卓越していたことから、桜掘運河において青潮が発生したことによる白濁と特定した。	判明	工場・事業場等からの排水による白濁でないとは判明した。27日の朝、青潮が消えたものの、28日には青潮が発生した。
11月2日 ・ 11月2日	11月2日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川	○	①環境局環境対策課 ② ③	矢上川上野川橋付近の右岸から油が流れていたとの水質事故連絡体制のもと通報を受けた。下流の鷹巣橋、昭和橋、五反田橋及び現地の上野川橋で油膜は無かった。現地では微かに油臭を確認した。通報がPM5時であったこともあり、流出経路を辿れず、原因の特定にいたらなかった。	不明	
11月14日 ・ 11月14日	11月14日	海域	塩浜運河	川崎区 千鳥町	○	①海上保安署 港湾局 ②海上保安署 原因者 ③環境局環境対策課等	海上保安署及び港湾局が塩浜運河において、油が流出していることを発見した。油の流出経路等を辿るなどの原因者特定のための調査を行った。資材置場から油が流出した状況を確認し、事業者に油流出防止の対応措置をとらせた。	判明	原因者に対して、油吸着マット等による油の回収や油流出防止措置をとらせた。市は、事故時の措置の報告等、再発防止策を指導した。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分	措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等					
12月11日 ・ 12月11日	12月11日	海域	塩浜運河	川崎区 水江町	魚死亡 油浮遊 その他	① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導 ①環境局環境対策課 危機管理室 川崎市消防局 海上保安署 神奈川県警察 ②海上保安署 原因者 ③環境局環境対策課等	廃水処理施設の原水槽清掃のため、汚泥をバキューム車で採取作業中、汚泥が雨水排水路に流出した。重金属を含む汚泥の流出量は10L～20Lである。原因者の事業所から通報を受けた。流出した汚泥は構内雨水側溝に土嚢を入れる等の防止策やバキューム車による回収策がとられた。海域への流出量は、軽微と推定された。	判明	原因者に対して、汚泥の流出防止策、回収の措置をとらせた。市は、水質汚濁防止法第14条第2項の規程に基づき、再発防止策等の事故報告するよう指導した。
3月3日 ・ 3月3日	3月3日	海域	京浜運河	川崎区 浮島町	魚死亡 油浮遊 その他	①海上保安署 川崎市消防局 ②原因者 ③海上保安署 川崎市消防局 環境局環境対策課 等	本事案は浮島町棧橋に停泊していた船舶から、積載されていたC重油の一部（1L）が作業操作のミスによって海上に漏洩した。直ちに、事業者はオイルフェンスを展開し関係機関に連絡するとともに事故措置にあたった。	判明	原因者は、事業者等の協力を得て、事故後の措置を行い、流出した油の回収等を行った。原因者に対して事故時の措置、再発防止策等を指導した。
3月9日 ・ 3月9日	3月9日	海域	多摩運河	川崎区 浮島町	魚死亡 油浮遊 その他	①海上保安署 神奈川県警察 環境局環境対策課 港湾局 川崎市消防局 ②原因者 ③海上保安署 川崎市消防局 環境局環境対策課 等	本事案は事業所敷地内構内路面及び雨水側溝に、工場内で取り扱っていない油が、降雨により一部海域に流出したものである。隣接事業所からの通報を受け、流出防止策、構内の油回収、流出した油の回収を行った。	判明	原因者は、構内で汚水の流出の遮断、バキューム車での回収措置をとるとともに、流出した油膜を吸着マットで回収を行った。再発防止策として、出入り車両の注意喚起、排水口点検の強化等の措置をとるものとした。
3月6日 ・ 3月9日	3月12日	海域	塩浜運河	川崎区 水江町	魚死亡 油浮遊 その他	①環境局環境対策課 ②原因者 ③環境局環境対策課	事業者は建設工事中に地下水が排水系統に混入し、一時的に海域にpH8.6を越えたものが流出したとの通報を市に行った。事業者は、地下水の排水系統への混入防止策をとるとともに、工事に係る排水に關してpH調整を行うなどの措置をとった。	判明	本事案は、事故原因の究明、再発防止策を講じる指導と、排水基準超過の両面から事業者指導を行った。

発生・ 受信月日	発生場所			事故区分		措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡				
					4	14			
	合 計				4	18		判明：16 不明：20	